

「誰かになる」

「もし、あなたが一人で知らない国で誰にも声をかけてもらえなかったら、どうですか。」

五年生の春ごろ。私と同じクラスに、ウクライナから一人の女の子が転校してきた。彼女は、母と二人で来たそうだ。この頃のウクライナではロシアによる軍事侵攻が始まっていて、性別や年齢は関係なく無差別に人々の尊い命が奪われ続けていた。メディアでも大きく取り上げられていて、私よりも幼ない子供が親を失い、絶望のあ

彼女が初めて学校に来た日。みんなが翻訳機を使つて声をかけている様子を、私は遠くから見ていた。旅行や親の仕事の事情で来た人とは訳が違ふのだ。私のふとした発言で傷つけてしまいそうで怖かった。でも、何もできないままの自分を情けなくも感じた。

そして、この頃には彼女に声をかける人は、ほとんどいなくなつてゐた。みんな彼女を一人ぼっちにしたいのではなくて、どのように接すれば良いのか分からなくなつたのだと思う。いつも教室で寂しそうに座っている彼女に、何かしてあげなければいけないと思つた。私が行動を起こさないと後悔する気がした。そう考えていた矢先、彼女は学校に来なくなつた。先生によると、今は何も出来そうにないということだつた。後悔した。私が声をかけたりしていれば、彼女の心を救えたかもしれない。救えなかつたにしても、少し支えになることが出来たかもしれない。私にとってあつという間だつた二年間が、彼女にとつてはどんなに長く、苦しい二年間だつただろうか。

算数の授業の終わり際、先生は私たちに、こう尋ねた。

今までざわついていた教室が一気に静まり返った。また、その言葉が私の胸をきつくしめた。何もしなかった自分に言われているのだと感じた。ふと、誰も座っていない彼女の席を見た。どう接す良いのかが分からなくなったというのは、ただの言い訳にすぎないことになつた。分からなくなったのではなく、本気で分かうとしていなかったのだ。これからも、何もしないままでよいのだろうか。変わる必要があるのではないだろうか。だから、分かうようになるうと

思った。まず、私がされて嬉しかったことは何だろう。一番に頭に浮かんだのは、あいさつだった。悲しいことがあった時、元気に友達があいさつをしてくれたことが嬉しかったのを思い出した。もし、また彼女が学校に来てくれたら、必ずあいさつをしようと思った。

中学一年生になった頃だった。彼女も学校に来てくれていた。だから、あの時変わろうと思った決意を胸に、あいさつをした。すると彼女は、うっすら笑みを浮かべ、日本語で

「おはよう」

と返してくれた。あいさつをするという選択が合っていたのかは分からないけど、返してくれたあいさつが胸にじんわりと響いた。

この経験を通して、人権とは「誰かに気にかけて声をかけてもらえないこと」だと思った。誰しも、ずっと一人で声をかけてもらえないのは孤独であり、とても辛いことだろう。でも、誰かに声をかけてもらえれば、少し前向きになれる。あなたが、その「誰か」になるんだ。たくさん声をかける必要はない。本当に大事な一言だけを言えればいい。その大事な一言をずっと大事に、笑っていてほしい人に伝えればいいんだ。その人の心に伝わった一言は、また次の人へと繋がってゆくはずだ。

あなたの周りに、一人で辛そうな人はいないだろうか。いたら、声をかけてみてほしい。

【作文】 中学生の部 「すべての人が平等に教育を受けるべき」

河南中学校三年 江竜 果音

私は「今自分が学校に通い、友達と遊んだり話したりできているのは当たり前」だと思っていましたが、世の中では当たり前のことではありませんでした。そこで今回世界と日本の教育の現状について調べてみました。

貧困の拡大が進んでいるアフリカでは、家族を支えるために子どもが長時間働きますが、低賃金しかもらない児童労働が問題になっています。多くの子どもが大規模農園で働き、農薬による健康被害や農具・重機によるけがなど、危険と隣合わせの仕事をする子どもがしています。児童労働により子ども達は教育を受けることができません。学校・教員の数が不足していることや、子ども達が毎日遠いところまで水を汲みに行くほど明日食べていくだけで精一杯の家庭が多いため教育費を払うのが大変なこと、そして親や周りの大人が子どもの頃に十分な教育を受けることができなかったため子どもに教育を受けさせる意味・必要性の認識が低いことなどが原因となっています。その問題を解決していくために、この現状を世界の多くの人に知ってもらい、学校の整備や貧困家庭の経済支援として資金を出し支援することや、一緒に物づくりをして支援していくなど世界では活動されています。

日本では法律で「全ての親に子どもに小・中学校の教育を受けさせる義務」があります。小・中学校に通わせるのは親の義務なので、国が教育費を負担してくれています。しかし、高校・大学への進学は

義務ではないので家庭で教育費などを負担し、進学するにつれ、かかる費用も上がります。そのため貧困家庭では進学が難しく、将来の夢を諦めてしまう人がいることも問題となっています。その問題を解決していくために国は、教育・経済・生活の支援を進めることや、子ども食堂を設置し家庭内での食費の負担を軽減させるなどの取り組みが行われています。

「女性には教育を受けるべきではない」と考える地域や「家事をするのに教育は役に立たない」「早く結婚して家を守るべき」と当たり前のことにように差別意識を持つ人がいるパキスタンで女性が学校に通えないという問題が起きています。パキスタンでは男性優位の慣習が根強いいため、女性は年ごろになると人前で肌を出したり、一人で自由に外出したりすることは許されません。

今の日本では「女性だから学校に通えない」ということはありませんが、家事・育児は女性の仕事という考えはまだ残っているのです。「女性には高等教育を受ける必要はない」ととらえる人もいます。職種によつて男女の賃金格差が生じ、同じ労働量なのに女性の方が賃金は低いことも問題となっています。

二〇一三年にパキスタン出身の当時十六歳のマララ・ユスフザイさんが国連で行った演説が、世界中で大きく報道されました。マララさんが教育普及を目指したきっかけは、幼い頃に住んでいた地域がタリバン（アフガニスタンの軍事勢力）の支配下になったことだそうです。国連でのスピーチでは、「あらゆる子どもの教育を受ける権利を訴えているのです。すべてのテロリスト・過激派の子ども達にも教育を受けてほしいと思っています」と語っていました。テロや暴力の根絶には教育は不可欠で、そのために「平和」が必要だと主

張し、すべての政府に対して「全世界であらゆる子どもに無償の義務教育を与える」よう呼びかけました。マラさんのこの言動により特にパキスタンでは教育への意識が高まり、学校に通う女性も増えてきましたが、テロ事件はまだ起きて続いています。もちろん負傷者も絶えません。

私は世界と日本の教育の現状について調べてみて、今自分が学校に通えているのは幸せなことだと感じました。アフリカでは児童労働により教育を受けることができないため、親も教育を受けてきてこなかった人が多く、教育への意識が低いと知り、私は親の教育に対する意識を高めてもらうことが必要だと思いました。そのためには親・周りの人達に教育を受ける上での良い点・悪い点、学んだことは今後何に活かされるのかなどの講座を開き、教育についてもっと知ってもらえる機会を増やすべきだと考えました。女性が学校に通えない問題を抱えているパキスタンでは、マラさんが国連のスピーチで教育の必要性を述べたことにより世界中では教育への意識が高まり、学校に通う子どもも増えました。私もマラさんと同様で全世界の子どもに無償の義務教育を与えてほしいです。そのために全世界の人々に教育の現状についてもっと知ってもらうことが必要不可欠だと思います。将来自分が働き始めたときに少しでも社会に貢献できるような募金などの取り組みに積極的に行き、今苦しんでいる人達を少しでも助けてあげたいです。

【作文】 中学生の部

「すべての人に優しい社会へ」

双葉中学校一年 横井 結友

私たちが暮らす社会には、様々な人々が共に生きています。年齢、国籍、障がいの有無など、一人ひとりが異なる特徴を持っています。その多様性を尊重し、すべての人が平等に社会生活を送れるようにするには、「ユニバーサルデザイン」が欠かせません。

ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、文化の違い、障がいの有無によらず、誰にとってもわかりやすく、使いやすい設計のことを指します。代表的なもので言うと、車いす利用者やベビーカーを押す人、大きな荷物を持つ人に便利なスロープやエレベーター、障がいのある人や高齢者、子どもに便利な自動ドア、聴覚に障がいがある人や言語が理解しにくい人でも内容を理解しやすくなるテレビの字幕放送などがあります。

実は、今年の七月に発行されたばかりの新紙幣にも、ユニバーサルデザインがたくさんとり入れられています。そのユニバーサルデザインの特徴を今から説明します。最初に挙げるのは触覚マークです。紙幣の角に、視覚障がい者が指先で紙幣の額面を識別できるように触覚マークが追加されています。二つ目はサイズについてです。それぞれ紙幣のサイズが異なっており、視覚的および触覚的に区別しやすくなっています。三つ目は色彩のコントラストです。額面ごとに異なる色が使われ、色覚障がい者でも区別しやすいように設計されています。四つ目は高精細なホログラムです。紙幣にホログラ

ムが施され、光の加減で色が変わるため、偽造防止と視認性向上のための対策となっています。最後に挙げるのは、数字の大きさです。紙幣の額面を大きな数字で表示し、見やすさを向上させています。

このようなユニバーサルデザインは、日本にきた海外の方も快適に使いやすいよう設計されています。旧札から新札になって大きく変わったことは、大きく表されている数字が漢数字から数字になったことが挙げられると思います。外国人が日本のお札を使う時に、漢数字が真ん中に大きく書かれていて、数字は端に小さくしか書かれていなかったのも、数字が小さくて不便だったそうです。ですから、新紙幣は外国の方も使いやすいよう、数字と漢数字の大きさと位置を変更したのだと分かりました。

作文を書いていく中で日本では、たくさんの方が不自由のない社会を生きられるようにするため、「ユニバーサルデザイン」を今日までとり入れてきたことを学びました。日本で行われている取り組みの他にも、外国ではどんなユニバーサルデザインが取り入れられてきたか気になりました。アメリカでは、「アメリカ障がい者法」がユニバーサルデザインの取り組みを推進する重要な法律となっていて、建物の入り口にスロープを設置することや、エレベーターに点字表示をつけることが義務付けられていることが分かりました。他にもスウェーデンでは歩行者や自転車利用者のためのインフラ整備が積極的に行われていたり、ノルウェーでは公共の建築物や交通機関、ITサービスなど、幅広い分野でユニバーサルデザインの適用が義務づけられているそうです。

このように、世界中でユニバーサルデザインは取り入れられています。

しかし、まだまだ課題点があります。まだまだユニバーサルデザインが設けられておらず、配慮の足りない部分も多いです。

他にも新しくなった新紙幣は、右上に数字が書いていないため、集金などで扇形に広げたり、財布からお札を出すときに何円札か認識しづらいという声もあります。世界中の人々全員が使いやすいデザインにするのは難しいですが、できるだけ多くの人々が使いやすいデザインにすることが一番大切だと私は思います。そのため、私たちがユニバーサルデザインがあたり前な未来を創っていく、今よりも明るく、誰しもが生きやすい世界にしていきたいです。